

# 体験活動参加型＋在宅取組型（小学校）



学校名等	中津川市立蛭川小学校
実施日時	平成30年9月29日（土）
会場	中津川市立蛭川小学校 体育館
参加人数	防災士3名 保護者11名 子ども15名 学校職員4名
学習課題（分野）	自分の命は自分で守る ～防災勉強会～
運営者の願い	近年、地震や豪雨災害等、多くの災害が起こっており、いつ何時災害が起こるか分からない。子どもも大人も、自分の命を自分で守る術を身に付け、非常時に備えるために、親子防災勉強会を計画した。

## 学習の内容

### <活動の流れ>

昨年、蛭川地区で立ち上がった蛭川防災士会の方を講師にお招きし、親子で体験を通して防災を学んだ。翌日、台風24号が上陸するかもしれないという中で開催だったので、参加していた大人も子どもも、実感をもって取り組むことができた。

活動の最後に、防災士の方から、家庭で取り組む防災についてのワークシートが配られ、活動で学んだことを家庭で活かしながら、自分の命を守るための「わが家の防災会議」を行うことを確認した。

### <活動の内容>

講師：蛭川防災士会 林 悟 氏 大橋 雅樹 氏 木野 泉 氏

#### ・防災紙芝居

紙芝居を始める前に、シェイクアウトについての話があった。緊急地震速報が流れたら、すぐシェイクアウトで身を守ることを伝えてから、子ども達にも分かるように、紙芝居で防災について説明された。紙芝居の最中に、セットしてあった緊急地震速報が数回流れ、そのたびに、親子でさっとシェイクアウトで身を守ることができた。

#### ・新聞紙スリッパ作り

地震等の災害時の避難で、ガラス等が割れて裸足での避難が危険な時の履物として、身近にある新聞紙を使ってスリッパを作る方法を教えていただいた。小学校低学年の子にも作ることができ、実際に履いて歩く体験をした。

#### ・卵の殻踏み体験

卵の殻を割れたガラスに見立て、手作りした新聞紙スリッパを履いて、殻の上を歩いた。

#### ・アイマスク体験

災害時、目の不自由な方の誘導方法を学んだ。交代でアイマスクを着け、災害時に見えないことの怖さに気づき、目の不自由な方の誘導のポイントを教えていただいた。

#### ・親子防災会議

自分の命を自分で守るために、災害時の家族の約束を話し合うよう、防災士の方から提案された。

### <参加者の感想>

- ・少し怖かったけど、いろいろやってみることができてよかった。(子)
- ・家で活かして、災害の時、生き延びたい。(子)
- ・目からの情報が8割と聞き、アイマスクを着けるとこんなに怖いんだと思った。(親)
- ・今日の体験を活かしていきたい。(親)



防災紙芝居



卵の殻踏み体験

### <体験することで学ぶ>

「緊急地震速報が紙芝居の最中にいきなり流れる」「卵の殻を割れたガラスに見立て、実際に歩いて危険であることを実感する」「暗闇を歩く」という体験を盛り込んだ工夫された防災勉強会で、大人も子どもも、五感を通して学ぶことができた。



### <親同士で学ぶ>

新聞紙スリッパ作りは、グループになって行った。親同士で話をしながら頭を突き合わせて新聞紙を折った。出来上がったスリッパを履いて歩く子ども達を笑顔で見守りながら、親同士の会話が弾んだ



### <親子で学ぶ>

親子で一緒に体験したことが、家庭に帰ってから、家族の話題となって、「わが家の防災会議」につながり、家庭での防災意識が高まる。

